

日本銀行(日銀)は、2025年1月24日の金融政策決定会合において、政策金利である無担保コールレート翌日物の誘導目標を、0.25%程度から0.5%程度に引き上げることを決めました。これ自体は市場に十分理解されていたと考えており、波乱要因ではないとみています。なぜなら、すでに日銀の植田総裁や氷見野副総裁のコメントなどで利上げの可能性が強く示唆されていたからです。また、今回の利上げで日本経済や企業が苦境に陥るとは考えにくく、コロナ禍からの正常化に加えて、賃金上昇に代表される経済全体のリーマンショックからの正常化の進展に対する、適切な金利の正常化の一環であると考えます。

市場の注目目は、これからの政策金利の引き上げペースでしょう。賃金上昇が少なくとも来年まで続くと考えてよいとみており、賃金上昇が支える2%程度のインフレの継続で、金利は1%でもまだ低いと言えます。弊社は年末までに0.75%への引き上げ(あと1回の引き上げ)を予想しますが、賃金上昇率の高止まりなどから日銀のインフレ率見通しも引き上げ

られており、今年から来年にかけて利上げは続くでしょう。

植田総裁の記者会見でのコメントなどから、今後ともインフレを支える賃金上昇などに目配りをしながら、機動的に利上げペースを決めていくようです。例えば、米ドル(対円)の動きは目配りの中に含まれるでしょう。米ドルが高止まりするほど利上げしやすく、急激な米ドル安円高となれば株安も起こりやすく利上げは後回しになりやすいと考えます。

基本的に米国のFRB(連邦準備制度理事会)も日銀も、政府の出方などを見ながら慎重に政策変更を続けるので、米国の政策金利は緩やかな低下、日本は緩やかに上昇、結果として米ドル(対円)は年末までに140円台へと緩やかな米ドル安円高を予想します。日本の金利高は賃金上昇と内需拡大期待に依存しており、日本株式は緩やかな金利上昇、円高でも内需関連銘柄に支えられ、年末までに日経平均株価は43,000円を超える水準に上昇すると予想します。

【日本の政策金利・長期金利の推移】

(2019年12月末～2025年1月24日)



【日経平均株価と米ドル(対円)レートの推移】

(2019年12月末～2025年1月24日)



*2024年3月18日までは日銀当座預金金利(一部にマイナス金利適用)、2024年3月19日以降は無担保コールレート翌日物(レンジの上限)信頼できると判断した情報に基づき、日興アセットマネジメントが作成 ※上記は過去のものであり、将来の運用成果を約束するものではありません。
※指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。